

初回委員会での主な論点の整理と多少の派生的・追加コメント

1. 本委員会からの意思の表出（カテゴリーとしては「提言」を想定）全般について

- ・ 独り言にならないよう、主たる読者を明確にするべき
（前回意見）国の政策、計画策定に携わる関係者のほか、国民、諸外国も意識するかどうか？
→産業界、学术界内部（分野別委員会、関係学協会）
- ・ 環境省、経産省の計画、工程表等が示される中、どう差別化するか？
（前回意見）国の計画では書きにくい事項もある中、学術会議ならでは書けることがあるはず
- ・ 俯瞰性、システムの視点を重視しつつも、概念論（だけ）ではなく、グッドプラクティスを盛り込む、事例として取り上げる分野・課題を絞り込むなど、具体性をもった内容とするべき
→25期のCN連絡会のマッピングも参考としつつ、俯瞰図を示したうえで、重点的に議論すべき課題を示すことも検討

2. CN,CE,NP という問題設定自身、3つの問題を同時に取り上げることに関する課題

- ・ 人口減少、地方消失等の社会の重要課題に比して、欧州ほど国民の環境問題への関心・意識が高くない中での対応：トレードオフ、複合リスクもあるが、コベネフィット、同時解決策が重要
- ・ CN,CE,NP を三つ巴で取り上げること、統合的に考えるべきこと自身は新しいことではなく、3つの問題(のうち2つの問題)のインターフェースのどこに課題があり、どう解決するかが重要
- ・ CN,CE,NP 各々をどのレベルで達成するか、経済の絵姿との関係を含めたゴール感
→CN は排出量、気温上昇など、定量的目標のための指標がほぼ確立しているが、CE、NP は目標値以前に指標すらも未合意（例：Nature Positive をどう定義するか？）で、かつ地域依存性あり
- ・ マネジメント主体が異なる複数のゴールについて、各々の主体がどうやって合同で成果を達成するか、という問題設定が今後の社会に求められる重要課題

3. 国際的側面

- ・ 輸入大国としてのサプライチェーンリスク（非鉄金属、食等の事例対象とも関連）
- ・ CN 技術の輸入依存（再生電力による電解水素の輸入、CN 技術に必要ななく鉱物資源等）
製造時の炭素排出(フットプリント)の大きい財の貿易に関する国際的枠組（炭素国境調整措置）

4. 政府、政策の役割

- ・ CSR など自主的取組、強制力をもった法的措置、拡大生産者責任、外部不経済の内部化
- ・ 政策のぶれと企業的意思決定の遅れ、官・民双方の縦割り、多様な利害関係者、公正な移行

5. 事例として取り上げる問題（群）の例

- ・ 食・農業(のサプライチェーン)、森林資源、廃棄物等を含むバイオマス資源（燃料、原材料）
- ・ CN 技術を支える非鉄金属鉱物（鉱物資源、リサイクルの光と影）、循環利用促進の技術と制度
- ・ 社会に不可欠で、海外に比べて取り組みが遅れているセクター（例：保健・医療）
[追記] プラスチックをはじめとする（石油）化学産業・製品、建材含め都市・建築物関連
※再生可能エネルギー、電力需給などエネルギーセクターの扱い

6. 政策決定を支える知見の元となる一次情報の不足（海外での資源採掘、海域（例：藻場）等）